

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース／湯地  
宏樹

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」及び「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」の2つの答申の実現には、本学の＜3つのポリシーの実質的な運用＞が課題だと考える。とくにディプロマ・ポリシー「1. 教育者としての人間性」「2. 協働力」「3. 生徒指導力」「4. 保育・授業実践力」「5. 省察力」を実際に4年間でどう育て、さらに将来も学び続ける教員としての資質を保障する必要がある。当然ながら、これらは教員単独ではなく、課外活動を含めた大学全体の教職員の共通認識のもとにした組織的な取組が必要である。

今年度からスタートする「教職実践演習」は、教員としての資質・能力（ディプロマ・ポリシー）を有機的に統合・形成させる科目として重要だと認識している。シラバスは学部共通であるが、内容のほとんどはコース別の裁量にゆだねられている。その科目担当者として、次のような授業実践を行い、保育者としての資質・能力のスキル向上を目指したい。

##### ①授業内容

- (1)各授業や保育・教育実習における自己評価
- (2)「保育実習」における実習委託園の指導教員による外部評価（そのための評価表を作成する）
- (3)学修キャリアノートを中心に(1)(2)の省察、自己の資質・能力の確認

##### ②授業方法

自己の資質・能力の補完・向上のために、次のアクティブ・ラーニングを学生が自主的に行うようにする。

- (1)ロールプレイ・心理劇：事例研究、自己紹介
- (2)あそびのポケット（模擬保育）：手遊び、エプロンシアター
- (3)クラスだより（学級通信）の作成

##### ③成績評価

この授業は、中教審でいう「学士力」のうち、知識や技能だけでなく、「態度・志向性」がとくに重要な科目だととらえている。見えにくい「態度・志向性」をとらえる手段として、ポートフォリオとしての「キャリアノート」や自己評価などを加味して総合的に判断する。

- (1)出席状況・課題への取組
- (2)発表の内容
- (3)キャリアノート・レポートの内容

## 2. 点検・評価

重点目標に対して、今年度からスタートする「教職実践演習」は、教員としての資質・能力を有機的に統合・形成させる重要な科目として位置づけて授業を行った。

①授業内容に関しては、受講学生(学部4年生)は、学修キャリアノートによって各授業や保育・教育実習を振り返り、保育実習おける実習委託園の指導教員による客観的な外部評価をもとに自己の資質・能力を再確認した上で、自己の資質・能力の補完・向上のための課題をそれぞれ自分自身で設定した。たとえば、保育実習で手遊びの必要性に気づいた学生は自主的にレパートリーを増やしたり、保育者としての直接的な援助が不十分だと自覚した学生は図書館の保育実践ビデオを視聴して省察したり、それぞれの自己目標に取り組んだ。

②授業方法に関しては、前期はロールプレイ・心理劇を中心に行ったり、ビデオカメラで絵本の読み聞かせ場面や保育の実践場面(2事例)を撮影し、振り返りのために学生に映像(DVD)を配布した。後期からは、新任保育者と仮定してクラスの子どもやその保護者たちに行う挨拶をシミュレーションしたり、あそびのポケット(模擬保育)として実際に鳴門市成稔幼稚園で手遊びやエプロンシアターを実演したりした。これらの学修の過程をクラスだより(学級通信)にまとめ、最後に学内で発表した。

③成績評価については、学修キャリアノートの自己評価、発表の内容などを加味して総合的に判断して行った。

以上、「教職実践演習」をとおして保育者としての資質・能力のスキル向上を目指したいと考えていたものの、実際にはその授業以外に行った面接の練習やエプロンシアターの練習時間を含め予習・復習など授業以外での準備学習の取り組む時間も多かった。こうして培った資質能力は、現場で真価が発揮されてはじめて生きてくると考える。卒業生の今後の保育現場での活躍に期待したい。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

本年度の教育・学生生活支援に関する努力目標は以下の3つである。

①学部1年次生クラス担当教員  
1年次のクラス担任として、新入生の期待や不安を考慮しながら、大学生活が円滑にスタートできるように支援したい。大学におけるスタディスキルズや保育者としての心構えなどもていねいに指導していきたい。

②卒論・修論ゼミの指導  
今年度はじめて、卒論生1名及び修論生2名を担当することになった。テーマに向けて学生が計画的に研究を遂行できるように支援していきたい。

③保育実習指導  
赴任して早々だが、これまでの伝統的な形式を一新して、省察を重視した実習日誌に改変するとともに、子どもへの援助、環境構成や指導案作成などの保育の構想に時間を割き、実習指導の充実を図る。

#### 2. 点検・評価

①学部1年次生クラス担当教員として新入生合宿で積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けた。新入生としていろいろ不安もあっただろうが、大学生活を円滑にスタートできた様子である。後期からは、授業(「保育原論」)で毎週会う機会があったが、学生の様子を観察・傾聴したところ、とくに問題の様子はなかったように思う。

②卒業論文・修士論文ゼミの指導においては、学部4年生1名及び修士課程院生2名に加えて、あらたに学部3年生3名、院生2名が加わった。11月、12月の構想発表や中間発表に向けて指導し、授業以外に毎週5コマ分をゼミの時間に当て個別指導を行った。

③保育実習指導については、省察を重視した実習日誌に改訂したり事前の実習指導の充実を図ったりした。8月～9月の保育実習の2週間の全日程を終了できた。しかし、事務的な学生への連絡の不徹底があったので、来年度からは改善していきたい。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

本年度の研究計画は以下の2つです。

①コンピュータゲームの研究  
コンピュータゲームで遊ぶ子どもの特性をさぐるために、幼児及び小・中・高・大学生を対象に調査を行う(科研申請)。

②保育者養成校における学習成果の研究  
子ども観、保育観がどのように形成されるか、また大学の成績やさまざまな生活経験が学習成果にどのような影響を及ぼしているかを調査する。

#### 2. 点検・評価

①コンピュータゲームの研究に関しては、平成26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(研究題目「スマートフォン及びタブレットゲームの使用の影響についての研究」)に内定したので、今後もさらに研究を推進していきたい。共同編者予定の『やさしい保育の心理学』の執筆において、遊びの研究についての先行研究を概観した。

②保育者養成校における学習成果の研究については、共同研究者とともに研究結果を論文にまとめる予定であったが実行できていない。なお、この研究に関しては、足利短期大学FD研修会「保育士養成プログラムにおける質保証の向上」(平成25年9月28日)における講演、第45回IDE大学セミナーIDE大学協会中国・四国支部(平成25年8月22日)実行委員を担当した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

今年度から大学院入学試験委員会委員(任期2年)として大学運営に携わる。そのための努力目標は以下の2つである。

①大学院教育の理解  
昨年度は、「大学院ガイドブック」改訂をとおして、幼年発達支援コースだけでなく、他のコースや大学院全体の特徴をある程度は理解できたつもりである。今年度は広報活動をとおして、よりの確に広報ポイントをプレゼンできるようにしたい。

②広報活動  
入試委員の役目としては、入試業務の運営だけでなく、定員確保のために広報活動にも力を入れる必要があると自覚している。「平成25年度学生募集行動計画」の採択の有無にかかわらず、学会や研究会などの機会にもパンフレットを持参して説明するなど、積極的な広報活動につとめていきたい。

### 2. 点検・評価

①本年度は、大学院入学試験委員会委員(任期2年)として、3回の大学院説明会(平成25年5月18日、6月23日、10月19日)に出席し、幼年発達支援コースについて、わかりやすく説明することを心掛けた。

②広報活動に関しては、9月20日(金)、「学生募集に係る広報活動」として安田女子大学、広島文化学園大学・広島文化学園短期大学へ訪問し、教職員や学生と面談した。そのほか学会や研究会などの機会にもパンフレットを持参して広報活動につとめた。しかし、本コースの定員充足に至らなかったため、来年度はさらなる積極的な広報活動につとめていきたい。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

平成23年度より附属幼稚園は研究開発学校として「幼稚園教育と小学校教育との連携を図る教育課程や指導方法の開発」に取り組み、今年度は3年目(最終年度)にあたり、引き続き「遊誘財がひきだす科学的思考」の研究を行う予定である。昨年度は、赴任したばかりということもあり、見習いとして研究会に参加させていただいた。今年度からは正式に共同研究のメンバーとして参加する予定である。小生の役割としては、教育学の立場から幼稚園と小学校のカリキュラムの接続という観点で分析・考察することだと考えている。

### 2. 点検・評価

研究開発学校「幼稚園教育と小学校教育との連携を図る教育課程や指導方法の開発」の遊誘財部会に4月23日、5月28日、6月25日、8月27日、9月24日、10月8日と計6回出席した。11月16日研究発表「幼児教育研究会」にも参加し、その研究紀要にも「幼児期の教育に評価は必要か？」という題目の論考の執筆の機会をいただいた。

また、広島市私立幼稚園協会主催平成25年度夏季集中講座において講演「言葉がけより言葉ぞえ」(平成25年8月22日)、広島県私立幼稚園連盟主催平成25年度上級教員研修会において講演「保育現場での質を高める」(平成26年1月11日)をそれぞれ行った。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

とくになし。